

リーダー講習会について

専務理事 高田 精作

今年度から新しい指導者制度に基づいてリーダー講習会を行なうことになりましたが、講習会のもち方やその前後の措置についていろいろな意見があるので、JCAの考え方を述べて各地方協会の参考に供したいと思います。

1. リーダー制度の考え方

JCAがリーダー講習会という補助事業を事業計画の中に入れているのは、各地においてサイクリングの普及推進に実際協力してくれるリーダーをできるだけ多く育成したいからであります。

従来のように個人の能力を認定する技能章的な資格の附与が目的ではありません。また如何にサイクリングのベテランであっても実際に協会の普及活動に協力しない人はこのリーダー制度の対象にはなりません

2. リーダーの育成と講習会との関係

前項のようなリーダーを数多く各地で育成することが、わが国のサイクリングを発展させる基盤として極めて重要であり、そしてその育成は短時間ではできないのももちろんであります。JCAの補助事業に取上げられているのは残念ながらリーダー育成に必要な経費の極く一部分であります。すなわち、リーダー講習会の開催につきJCAから出せる金額は2日分程度を標準として目下日自振に交渉しているが、それが認められてもわずか2日間でリーダーの育成ができる筈はないので、これは次のようなことが前提になるわけであります。

- (1) この講習会の受講者は本人の平素の行動からみて2級または1級のリーダーにして差支えないと思われるものを予め選定して受講させる。
 - (2) 2日間の講習会で学科、実技の能力検定をするには予めテキストと試験問題集で勉強させた上、第1日は先ず学科のテストをし、これに合格したもののだけを実技面のテストに参加させるような方法が適当と考えられる。
 - (3) これに合格したものにリーダーの資格を附与するがこれは一応の区切であってこの事業の根本の目的を達成するためにはその後のアフターケヤーが大切である
 - (4) たとえば、資格取得者を協会の行なうラリーやクラブの行事等にできるだけ協力させ、本人の指導力を実践を通じて高め、その中から上級の指導者候補を育てるような配慮が望ましい。
 - (5) 従って学科や実技のテストで多少得点が不十分であっても、先に行って伸びる見込の大きい人間であれば資格を附与するという考え方が必要と思われる。
- ### 3. リーダー講習会のもち方
- リーダーを育成する講習はクラブ活動やサイクリング教室の方でやって、ここでいうリーダー講習会はリーダーの資格附与のための検定が主な内容となるから、そのもち方としては2級リーダーの場合大体次のようなやり方が標準的と考えられる。

- (第1日) 学科 (合格者は引つづき実技)
 受講者30~50名、講師(検定委員)3~5名
 ペーパーテスト 9.00~10.00
 採点 10.00~11.00
 発表 11.00~11.30
 実技テスト 11.30~16.00

(会場附近でできるものたとえば車の整備点検、乗車姿勢等)

- (第2日) 実技 9.00~16.00

受講者30名、講師 3~5名 補助 4~5名

A. 実技 (5単位 ただし第1日目にテストした分は除く)

B. 指導 (3単位)

4. リーダー講習会のための講師研修会

このリーダー制度は今年度初めて実施するものなので、各協会でリーダーの検定にあたる講師をJCAが集めてそのやり方などについて研修を行うことが有効と考えられます。しかし9月、10月、11月は各種の行事があるため、早急に研修会を開くことが困難かと思われるので、或はもっと後に各県でやって見た結果を持ち寄って研究協議をすることになるかと思えます。

5. テキスト等について

受講者用のテキストと試験問題集は9月下旬頃各協会にお送りする予定です。

なおリーダーのバッジは、各各協会からリーダー検定合格者の名簿(氏名、住所、年令、所属クラブ等)を提出すればJCAから無料で所要個数を送ります。

付 記

各協会での他の行事との関係等で、テキストなどが届く以前にリーダー講習会を実施される場合は、前年度並みの1日限りの講習会(補助限度額18,500円)でやって頂いて、後日新制度のテキストや実技内容に比べて不足する部分を補講または検定(これは補助金が出ない)をして新制度によるリーダーの資格を附与せられても結構です。

初心者対象のサイクリング教室各県で開く

本年度から新しく補助事業として認められたサイクリング教室は地域、職域、学校等における初心者を対象としてサイクリングの基礎知識、交通ルール、実技指導などを組合せて1日教室を実施するもので、すでに下記各地において開催、相当な効果をあげている。

県名	とき	ところ	参加者	参加対象
千葉	7月22-23日	嶺岡	80	高校生
富山	6月9日	砺波	100	中高生
福井	6月14日	三方	73	一般
〃	6月15日	福井	111	〃
兵庫	6月11、30日	西宮	72	大学生
広島	4月14日	三次	92	一般
熊本	6月9日	熊本	117	中高生

各地の県教育委員会でサイクリング指導に本腰

6月中旬和歌山県で行われた文部省主催の野外活動指導者講習会にサイクルキャンプが本年度の指導項目であったため、下記各県における教育委員会主催の野外活動指導者講習会でもサイクリングはキャンプとともに主要課目として採用されており、中高校の教職員およびスポーツ、レクリエーション等野外活動関係の指導者の必修課目として重要視されている。

府県名	とき	ところ	参加者
茨城	8月28~30日	筑波~土浦	29
千葉	7月3~6日	長狭	31
神奈川	8月25日	茅ヶ崎	82
大阪	6月17~18日	大阪(講義)	80
〃	6月21~23日	能勢(実技)	80
和歌山	6/29~7/1	潮岬	43
山口	6月5~8日	秋吉台	38

目立つ親子連の参加 17地区で県ラリー実施

春のシーズン以来今年も全国各地においてサイクリング行事が活発に行われて、特に県ラリーは盛んである。今年の特徴としては同じ県内でも比較的サイクリング活動の不活潑な後進地区を重点的に狙って実施していることで、大きな成果をあげたところもある。

また一部では親子づれで参加する姿も目立っており、サイクリングの普及推進上一番望ましい傾向を見せてきたのが注目される。

8月までに開催されたラリーは下記の通り。

	とき	ところ	参加者
北海道	5月26日	札幌	132
、 "	6月16日	根室	100
、 "	6月2日	釧路	300
山形県	6月2日	高畠	156
群馬 "	8月20日	太田	150
茨城 "	8月11日	東海村	200
栃木 "	5月26日	宇都宮	280
東京	6月15～17日	三宅島	356
長野県	8月4日	長野	350
新潟 "	7月21日	長岡	200
三重 "	6月9日	伊勢	350
福井 "	7月28日	敦賀	148
京都	8月18～19日	京都	100
岡山県	5月19日	井原	596
広島 "	6月2日	三次	342
福岡 "	5月12日	久留米	250
宮崎 "	8月24～25日	日南	250

“早起きサイクリング” 一石三鳥と大好評

今年は夏休みを利用して各地のサイクリング協会では地元の教育委員会等の協力をえて、早起きサイクリングを実施、好評を博した。中には余り評判が高くなって100名以上

も参加者が増え嬉しい悲鳴をあげていたところもあった位である。

自動車の交通量も少ない早朝に新鮮な空気を胸いっぱいしながら老幼男女が交通ルールを守って元気よく銀輪を走らせる健康な姿は一幅の絵をみるようなすばらしさがある。

早起きサイクリングはともすれば野放しになりがちな夏休みの時期を秩序ある生活のリズムを自主的に守らせ、しかも子供たちの大好きなサイクリングによる体力づくりの促進と交通安全の教育の場とするともに野外活動の楽しさを体得させるという一石三鳥の効果もあると関係者も大喜びであった。特に親子兄弟が参加して楽しく走るとは将来のサイクリングの理想的な姿といわれているファミリーサイクリングの第1歩であり、もっとも望ましい形であるといえよう。

今夏早起きサイクリングを実施したところは次の通りである。

石川県山代町、甲府市、東京都世田谷区、栃木県二宮町、山形市、福島県白河市、大阪市。

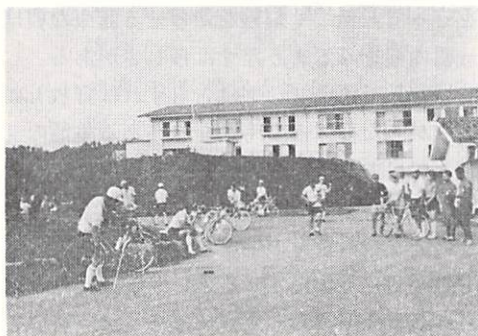
第3回 サイクリングトロフィ 9月22～23日鎌倉で実施

サイクリストのレベルアップを目的とする第3回サイクリングトロフィが9月22～23日の2日にわたり、神奈川県鎌倉市周辺において実施される。内容はJCAニュース No.23に詳細に記載されている通りであるが、具体的なチェック項目は新しいアイデアが盛り込まれている。

参加者はジュニア（中学生）一般（高校生以上）にわかれ、ペーパーテスト（知識）実技テスト（ゲート12）をうけ総合点（1000点満点）によって優勝をそれぞれ決めることになっている。

参加希望者は県協会を通じJCAまで申込むこと。参加料一般1000円 ジュニア 900円。

第12回全国ラリー開かる 700名のサイクリスト集う



宿舎前での各県の親善記念撮影

台風の影響で前日までは雨模様のぐずついた天気であった福岡県の天候も全国のサイクリストが待ちに待った第12回全国サイクリングラリーが開催される当日（8月3日）になるやたちまち打って変わった好天気になり、やきもきしていた関係者や参加者をほっとさせたあたり、正に天の加護ともいふべきであろうか。

この日遠く北は北海道、南は沖縄など各地から参加したサイクリストは700名に達し、開会式場の九電記念体育館前広場では1年ぶりの再会を喜んでそちらこちらで元気に話し合うグループの輪がたくさん見受けられた。

開会式は10時から行われ、高山大会実行委員長の開会宣言、国歌斉唱、安井会長（花村副会長代理）あいさつ、県知事、市長の歓迎のことば、参加者代表の宣誓、リーダーの紹介等があつて閉会、そのまま場内より沖繩班を先頭に出発した。

第1日の行程は25キロ、途中大濠公園、東公園、香椎宮など古い史蹟をめぐって博多港へ、そこから船で博多湾を横断志賀島へ、二班にわかれて宿泊、夕食后地元町会の好意により特別に設けられた舞台上でグループサウンズ、博多おどりなど盛だくさんの歓迎が夜

の9時まで行われた。

翌日は宿舎を8時スタート、前日の25キロで物足りない顔をしていた参加者もこの日は午前中に大宰府まで50キロも走るためご機嫌である。香椎宮、板付飛行場、都府楼で休憩先頭の第一集団は予定通り12時に大宰府に到着、早速町長の出迎えをうけた後、天満宮を参拝、神主さんのおはらいを神妙な顔をしてうけ、ゆっくり昼食をかねて14時まで大宰府を見学、14時30分近くの筑紫工業高校体育館において閉会式を行い、15時来年は石川県であいましようを合言葉に散会した。

大阪府、北海道の少年団 大会でサイクリング実施

北海道と大阪府で行われたスポーツ少年団大会にサイクリングが積極的に取上げられ参加者から喜ばれている。これまでも地区的なスポーツ少年団活動ではサイクリングが実施されていたが都道府県単位の大会にも重要なスポーツ種目の一つとして採用されたことは、今後の活動にプラスになるものとして歓迎されている。

北海道（第2回）7/30～8/2 深川 500
大阪府（第6回）8月11日 枚方 2000

佐近光三氏晴の表彰うける 第10回国立公園大会で

皇太子、同妃両殿下をお迎えして8月1～2日、福島県の磐梯朝日国立公園で開かれた第10回国立公園大会に野外活動隊の1部として207名のサイクリング班が参加、1000名の野外活動隊中最大の参加人員をほこり、その節度ある行動とマナーは参加者中の模範とされ関係者から絶賛を博した。

特に団長のJCA常任委員の佐近光三氏は指導者として第1回から連続10回参加したため晴の表彰をうけサイクリング班のため万丈の気を吐いた。